



一人一人が農業クラブ員としての自覚を持ち、主体的に農業クラブ活動に取り組むためにはどのような活動を行えばよいか。



FFJ マスコットキャラクターのうくっく

農業クラブとは？

「農業クラブ」とは、農業を学ぶ高校生が全員参加する組織です。学習の成果を活かし、研究活動や農業に関する競技、国際交流など、活躍の場が豊富であることも、農業クラブの大きな魅力です。

正式名称：日本学校農業クラブ連盟 (FFJ:Future Farmers of Japan)
①全国農業関係高校約400校が加盟
②クラブ員数は全国で約75,000人



課題の分析

本校は明治41年「西白河郡立農学校」としてスタートし、今年で創立116年を迎える福島県内でも屈指の農業高校です。卒業生は2万3千名を超え、地域農業を支える一方で、開校当初とは農業を取り巻く環境は大きく変化し、さらにクラブ員数も減少していることから、農業クラブ活動は変革期を向かえています。

課題について分析をしたところ、本校の農業クラブ活動は、課題研究の専攻班は県内最多の18部門あり、多彩な活動が多くあります。このことから、多彩な実習を通じてクラブ員である自覚が高いのではと仮定しました。

校内アンケートを実施したところ、クラブ員であるとの自覚が少ないため農業クラブ活動に参加していないと感じていることがわかりました。日連会則では、将来の産業にふさわしい力、クラブ員相互の学び合い、地域活動と国際理解の3つを示しています。学校の取り組みをこの3つに当てはめ、学校全体の取り組みが農業クラブ活動であると定義しました。



GAPから始まったGood Job Story

2018年、海外派遣事業でオランダを訪問した際、グローバルGAPは農産物生産の国際基準であることを知り、2020年からはクラブ員が主体となって、審査書類の作成から公開審査の説明、場内表示をすべて実施しています。18品目でグローバルGAP認証を取得し、認証数高校単独日本一を達成しました。さらにJGAPIは、3種同時認証を達成し国内初の快学を達成しました。本校のGAP活動は、地元・鏡石町をはじめ福島県のPRとなり、大きくメディアにも取り上げられ、学校の知名度や農産物の安全性を高める一因となりました。これまでの取り組みが評価され、令和5年度「第38回教育奨励賞」において最優秀賞にあたる優秀賞および文部科学大臣奨励賞を受賞しました。



クラブ員の感動体験の蓄積

(1)GAP認証を受けた食材を使った6次化商品の開発

- ①産学連携協定を結んでいる「八芳園」とともに岩農産「コシヒカリ」を使用した『甘酒』の商品開発
②海外輸出に向けて作られたブランド米「福数多(ふくあまた)」の作成
③地元鏡石町の地域おこし協力隊と連携して誕生した『愛情たっぷりん』の商品化
④岩農産「コシヒカリ」使用の「カーノケール米粉麺」の商品化



「令和4年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール GAP部門」において、東北農政局長賞を受賞、県知事をはじめ他校からの視察も増え、「将来の農業者を育成する先遣校」としての自信を高められました。

今年度から郡山市や農業法人でんぱたと連携して、「岩農ブランド輸出プロジェクト」が本格的に進んでおり、クラブ員の頑張りが世界で評価される日が待ちきれません。

(2)環境・観光分野での活躍

- ①福島空港応援プロジェクトの推進
滑走路脇に草花の植栽、造園施工の知識を活かして「空港内の癒しの空間作り」の推進、週末限定販売会イベント「岩農WEEK」の開催などを実施しています。
②宇津峰山の山野草保全活動
授業で取り組んでいる植物バイオの技術を生かして、10年にわたり福島県郡山市にある宇津峰山の山野草保全に取り組んでいます。長年の取り組みが評価され、「林野庁長官賞」を受賞、「うつくしま、ふくしま、環境顕彰」に選出されました。
③「かみいし田んぼアート」の開催
本校と鏡石町が協力して田んぼアートの測量や苗生産を行い、鏡石町の観光PRに大きく貢献しています。昨年度は、「全国田んぼアートサミット」が開催され、全国に本校の取り組みを発信させました。



テーマのまとめと今後の課題

GAP活動に取り組んだことで生徒の主体性が向上し、商品開発、産学連携、環境緑化活動など多彩な活動が行われています。そして、「アグリビジネス」の分野が強化されたことで生産、加工、流通、販売のサイクルが確立され、クラブ員の活動が循環サイクルとなり、目に見える形となりました。

クラブ員自ら授業や実習で取り組んでいる内容を多くの方々に、「見られている」という意識が高まり、授業に取り組む意欲の増加や進路実現に生きるサイクルが確立されました。多彩な活動がクラブ員の自信・やる気につながり資格取得においても合格率が上昇しています。過去3年間の進学者は年々増加するとともに、農業関連産業に就職するクラブ員は増えつつあります。

学校全体の活動をクラブ活動と定義し、これまでの取り組みを踏まえて再びアンケート調査を実施すると、3項目すべてにおいて、クラブ員は能力が向上していると回答し、県内屈指の多彩な活動からクラブ員の感動体験が蓄積されていることが証明されました。

今後の課題として、学科の壁を越えた取り組みを増やしていき、クラブ員一人一人がより感動体験を蓄積していくことが必要です。

学校全体で一つのスキームが確立したことで、クラブ員が感動体験を覚え、自信につながっています。これからも新しい挑戦を続け、「中学生が入学したい学校」、「在校生が誇りを持っている学校」を目指していかなければなりません。

これまで大きく違う時代だからこそ、グローバル化に対応した岩農は地域、あるいは福島から世界へ広がる学びを発信していきます。そして、常に進化し続ける岩農を目指すことを誓います。

